平成 26 年度後期に専門教育入門セミナーを開講したのは

教育文化学部（一部の課程・コース）1 年次　と　工学部（全学科）1 年次

※教育文化学部では、課程・コースによって、専門教育入門セミナーの開講学年・時期が異なる。

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※　以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の④～①のうち該当する丸数字を選んでください。　①:あてはまる　②:ややあてはまる　③:あまりあてはまらない　④:あてはまらない

設問 4　シラバスに沿って授業を行えた。

①:9（75%）　②:3（25%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 5　学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:10（83%）　②:2（17%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 6　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:6（50%）　②:6（50%）　③:0（0%）　④:0　（0%）　未回答:0（0%）

設問 7　重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:7（58%）　②:5（42%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答: 0（0%）

設問 8　学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:7（58%）　②:4（33%）　③:1（8%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 9　受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:8（67%）　②:4（33%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 10　受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した　等）

①:9（75%）　②:2（17%）　③:1（8%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 11　授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:6（50%）　②:4（33%）　③:17（7%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 12　総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:6（50%）　②:6（50%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 13　シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:5（42%）　②:7（58%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

B（問 14～18）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 14　この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　1（8%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　5（42%）

③他大学の FD 活動の視察：　0（0%）

④その他：　4（33%）　・・・具体的には以下のとおり

教育文化学部

「後期直前に開講の話があったため（FD 活動への）取り組みはできなかった。」

「授業担当者間の教授内容の調節」

「学生による授業アンケート」

工学部

「学科内でのＦＤ報告会の実施」

未回答：　2（17%）

設問 15　今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　3（25%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　7（58%）

③他大学の FD 活動の視察：　0（0%）

④その他：　2（17%）　・・・具体的には以下のとおり

教育文化学部

「授業担当者間の教授内容の調節」

「学生による授業アンケート」

未回答：　1（8%）

設問 16　前年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

※　専門教育入門セミナーでは、本設問は非該当（昨年度までの共通教育に該当する科目が無かった）

設問 17　自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：　9 クラス（順不同）

教育文化学部

[1] 授業評価のアンケートを回収後、おおよその傾向を見ましたが、満足度は高いようだけれども、達成目標には到達していないと感じている学生が目立ちました。到達目標自体の改善あるいは具体的な目標をさらに設定するなどの策が考えられます。それとともに、この科目の位置づけ、基礎教育と専門教育との架け橋に位置するとはどういうことかなど、科目自体のねらいが、各学部もしくは各講座ごとに検討でき、かつ情報交換できるとよいのではないでしょうか。いずれにせよ、慌ただしい出発（そもそも時間割上の設定が用意されていなかった）であったと思います。

[2] 初めて担当する科目であり，且つ新設科目であったため，試行錯誤であったが，学生のこれからの専門科目の学習に必要な知識と技術に関する講義・演習になるよう努めた。

[3] コンピュータや情報に関する学習において、小学校あるいは中学校教員として修得すべき必要な技術として、エクセルによる成績評価やデジタルコンテンツ（ビデオクリップ）作成に関する授業を行った。実践に役立つ具体的な内容としたことから、学生の興味・関心が非常に強く、学習にも懸命に取り組んでいると感じられた。最後に、作品（ビデオクリップ）の評価会を設定したことにより、各自が意欲を持って作業に取り組めた。

[4] 実践力のある教員になるために大学４年間かけてどのように学習していくかを意識させるための働きかけをもう少ししてもよかったと思った。

[5] オムニバスの科目であったが，他の教員と連携してシラバス通りに運営することができた。「専門教育」入門セミナーということもあり，各教員が学生に求める学修内容のレベルが高く，「秀」を１名も出せなかったことは残念である。

[6] 完全なオムニバス形式で授業を行った。授業の評価以前に、本授業の必要性が全く理解できない。

・教育文化学部・学校教育課程の場合、専門教育入門については、教職に関する科目で満たされている。

・また、教科専門科目に関しては、例えば「Ｉ」や「基礎」のつく科目が基礎的な内容になっている。

したがって、そもそも「大学入門セミナー」以外の基礎科目の必要性が認められない。

工学部

[1] 大学教育入門セミナーとの違いをはっきりさせる。

[2] 初年度であったためプレゼンテーション等の発表日程の設定等に少し現実にあわない部分があった。また、成績評価のための提出物を多く設定しすぎた印象がある。来年度に向けて改善予定である。

[3] 研究室配属体験（５コマ）は統一的な方針を決めないまま、内容や評価を研究室にまかせた。次年度は、教員間ネットワーク等で内容や評価のガイドラインを定めたい。

企業見学会、修士論文発表会・卒業研究発表会への参加は、学生にとって将来を考える良いきっかけになったと思う。

設問 18　FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：　なし

C（問 19～21）：中期目標・中期計画の関連で「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19　授業の中で「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：　11（92%）　　②いいえ：1（8%）　　未回答：0（0%）

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20　下記のどの点を重視しましたか？**（複数回答可）**

①聞いて理解する：　6（50%）

②読んで理解する：　5（42%）

③自分の考えをまとめて話す：　9（75%）

④自分の考えを文章にまとめる：　11（92%）

⑤討論する：　1（8%）

⑥皆の前でプレゼンテーションする：　1（8%）

⑦その他：　2（17%）　・・・具体的には以下のとおり

教育文化学部

「自分の発表している姿をフィードバックして捉える」、「美術館等で実物を観て理解する」

未回答：　1（8%）

設問 21　「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答：　7 クラス（順不同）

教育文化学部

[1] 教員から投げかけた質問には自分なりの考えをきちんとまとめて答えることを全員に課した。また，個人の発言のあとには内容を確認しながら，他者によりわかりやすい表現方法はなかったかを考えさせるようにした。

[2] 学んだ内容に関するディスカッションを行った。

[3] グループワークによって，

①関心事項について話し合い，

②テーマにそった質問紙の作成，

③調査実施，

④調査結果の集計，

⑤調査結果の考察，

⑥プレゼンテーション

を課した。また，発表とその質疑応答の内容を踏まえて

⑦レポート

も課した。したがってコミュニケーション能力を促す授業内容であったと考える。

[4] ビデオを活用して3回ほど、発表や群読の姿を撮影し、各個人に各人の映像データをフィードバックしました。そこでは、自分の発表している姿・声・癖など、具体的な改善すべき点が、かなり強烈に意識できたようでした。さらにさまざまな授業でも、画像によるフィードバックを行いましたが、自己を客観的に見つめることを、即効性を以て把握できたという所でした。今回は予備調査的なものですが、さらに、発表に対する、学生による自己評価ポイントを絞り込めるようにしていきたいと考えています。

工学部

[1] 1教員あたり9～10名のクラスに分け、さらにその中で3～4名の少人数グループに分かれるグループワークを実施した。

[2] パワーポイントを用いた発表会

[3] 研究室配属体験（５コマ）において、１研究室あたり５～６名の学生を配属し、研究室の教員の指導のもと、セミナー、実験、実習を行った。セミナー、実験、実習の内容を発表するとともにレポートにまとめさせた。

D（問 22～25）：中期目標・中期計画の関連で「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22　授業の中で「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：　11（92%）　　②いいえ：　1（8%）　　未回答：　0（0%）

問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。

設問 23　授業中で取り上げるおよその回数を選んでください。

①１～５回：8（67%）　②６～10 回：3（25%）　③11～15 回：0（0%）　未回答：　1（8%）

設問 24　「地域」のどのような分野を取り上げていますか？**（複数回答可）**

①歴史・文化：　3（25%）　②政治・経済・産業：　4（33%）　③自然環境・フィールド体験：　2（17%）

④その他：3　（25%）　・・・　教育文化学部「芸術」「宮崎大学の学生」；　工学部「地元企業の見学」

未回答:　1（8%）

設問 25　「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：　4 クラス（順不同）

教育文化学部

[1] 地域で活躍する音楽家による演奏の鑑賞を行った。

[2] 調査対象を「宮崎大学の学生」として，各グループの関心事項について質問紙調査によるミニ研究を実施した。

工学部

[1] 工学部の学生なので、宮崎という地域と最先端の科学技術との関わり合いを意識した指導をおこなった。

[2] 学生が自らのキャリアプランを考えるきっかけとするため、地元の情報通信企業（NTT 西日本宮崎支店）の見学会を行なった。